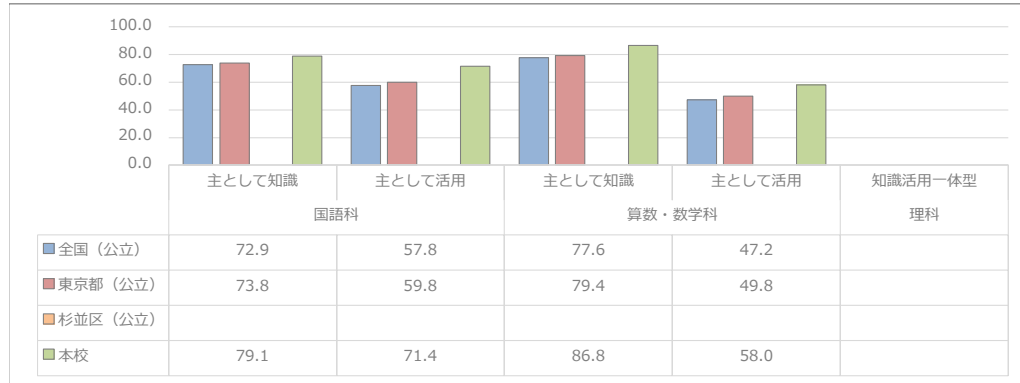
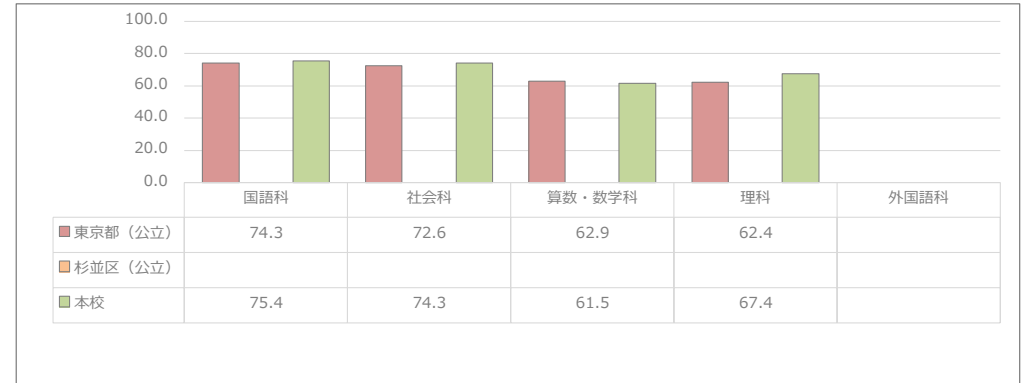


■全国「学力・学習状況調査」(小学校第6学年)



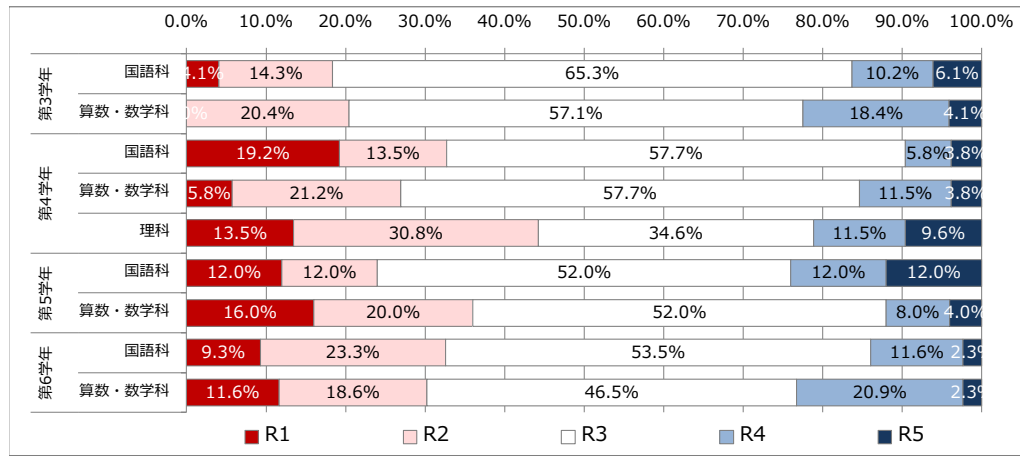
平均正答率(全設問に占める正答した設問の割合、%)の比較

■東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」(小学校第5学年)



平均正答率(全設問に占める正答した設問の割合、%)の比較

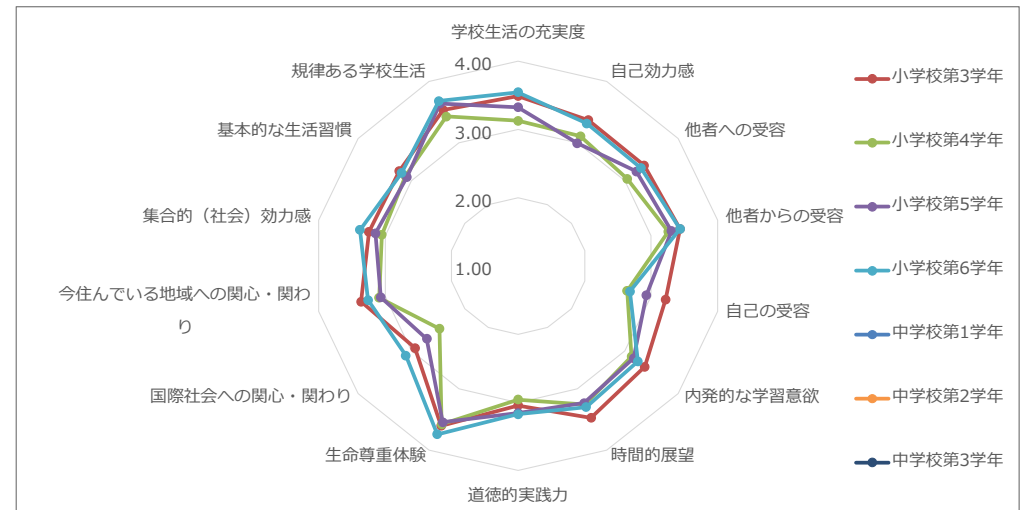
■杉並区「特定の課題に対する調査、意識・実態調査」(小学校第3学年から第6学年)



学習指導要領に準拠した学習状況の評定(当該学年の全児童生徒に占める各段階の児童生徒の割合、%)

R1: 学び残しが多い R2: 特定の内容でつまづきがある R3: おおむね定着がみられる
R4: 十分な定着がみられる R5: 発展的な力が身に付いている

※空白は未実施の学年(小学校第5・6学年は各学校の希望実施)



各領域に含まれる項目の平均(肯定=4、やや肯定=3、やや否定=2、否定=1に換算)

■調査結果の考察と今後の取組

○全国学力・学習状況調査(6年)、東京都学力向上を図るための調査(5年)では、本呼応は全ての教科・項目についてほぼ同じか上回っている。5年の社会科のみ0.7ポイント劣っている。

○杉並区「特定の課題に対する調査」の結果から

《国語》○学年によってばらつきはあるが、概ね5割~6割がR3(概ね定着が見られる)以上に入っている。R1~R5の割合も杉並の平均に近い。

・R2までの割合を減らし、R3へ引き上げる手立てを組んでいく。「聞く・話す」ことについて重点的に指導していく。学習形態を工夫して、コミュニケーション力の向上を図る。

・「読む」については、学校図書館を活用し「東田必読書」の取り組みを推進していく。「書く」については、ドリル学習を毎時間取り組み確実な定着を図る。

《算数》○ほぼ7割以上がR3(概ね定着が見られる)以上に入っている。R4、R5の割合が区の平均に比べて少ない。発展的な学習に取り組みさせる必要がある。

・今年度校内研究で取り組んでいる、「ノート指導の統一」「ペア学習の定着」を年間を通して進めていく。意見交流をしながら、自分の考えを深めさせ数学的な思考力を高めていく。

《理科》○区の平均に比べてR1、R2の割合がかなり高い。科学的思考力等を高めるために、問題解決学習を推進していく。